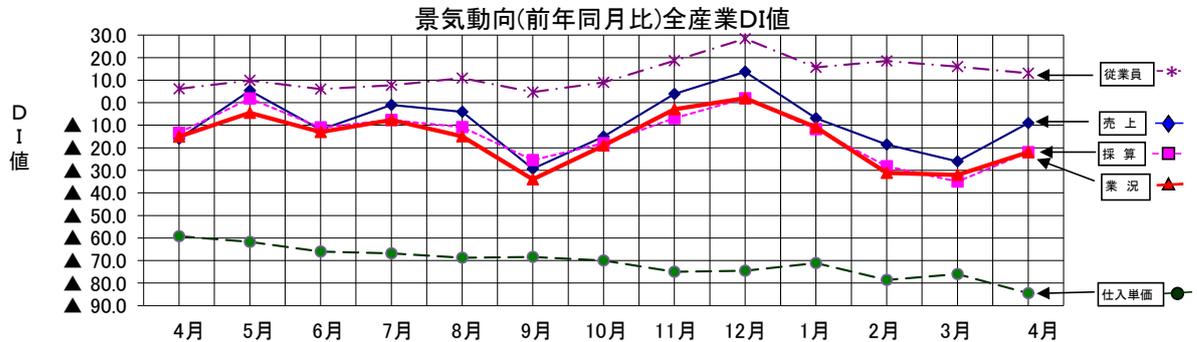


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 4月分

【4月の概要】 原油高、値上がり、品薄状態、依然として解決せず ロシアのウクライナ侵攻も深刻さに拍車

業況判断を示すDI値は、売上、採算、業況において2ケタ台で改善し、先行き見通しの業況DIで9.0ポイント回復したものの、仕入単価DIは悪化傾向。DI値は全体的にマイナス水準で推移しており、力強さに欠ける状況が続いている。

寄せられたコメントでは、引き続き新型コロナの影響で人の動きが鈍いうえに、原材料や資機材不足・値上がり、原油高等を指摘する声が多く出ており、ロシアのウクライナ侵攻の影響が深刻さに拍車をかけている。新年度に入ったものの、暫くは深刻な局面が続くものと予想される。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2021年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2022年4月
売上	▲15.9	▲5.4	▲12.0	▲1.0	▲4.0	▲29.3	▲15.0	▲3.9	▲13.7	▲6.9	▲18.5	▲26.0	▲9.0
採算	▲13.3	▲1.8	▲11.0	▲7.7	▲10.9	▲25.5	▲18.0	▲6.9	▲2.0	▲11.8	▲28.2	▲35.0	▲22.0
業況	▲15.0	▲4.5	▲13.0	▲7.7	▲14.9	▲34.0	▲19.0	▲2.9	▲2.0	▲10.8	▲31.1	▲32.0	▲22.0
仕入単価	▲59.2	▲61.7	▲66.0	▲66.8	▲68.8	▲68.4	▲70.0	▲75.0	▲74.5	▲71.1	▲78.6	▲76.0	▲84.5
従業員	6.2	9.9	6.0	7.7	10.9	4.7	9.0	18.6	28.4	15.7	18.5	16.0	13.0

- ・プラス幅が減少したDI値：従業員▲3.0ポイント（需給均衡局面へ）
- ・マイナス幅が減少したDI値：売上17.0ポイント、採算13.0ポイント、業況10.0ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：仕入単価▲8.5ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
2月	▲ 3.9	▲ 13.6	▲ 9.7	▲ 57.3	14.6
3月	▲ 7.0	▲ 17.0	▲ 24.0	▲ 60.0	20.0
4月	▲ 5.0	▲ 16.0	▲ 15.0	▲ 71.0	16.0

- ・見通しが改善したDI値：売上2.0ポイント、採算1.0ポイント、業況9.0ポイント、従業員4.0ポイント（需給均衡局面へ）
- ・見通しが悪化したDI値：仕入単価▲11.0ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	管工事	資材不足の中で機械類の中古再生品の問合せが数件来ている。
	ゼネコン	一部資機材の調達が困難なことに加え、円安・原油高を反映し建設資材の高騰が続いている。
製造業	鋼材	急激な鋼材の値上がりが続き、受注済みの物件に価格転嫁できず採算が悪化している。
	菓子	小学校等での感染拡大で、社員（保護者）の休業が多く、人手不足状態に陥っている。
卸売業	建設資材	仕入価格が大幅に上昇している。毎日各方面から値上げのお知らせが届く状況。
	水産物	水産物は日本勢の買い負けが顕著。原材料高騰、品薄が慢性化している。
小売業	自動車	未だ半導体不足と中国等の新型コロナ感染の影響で、新車の生産供給不足が続いている。
サービス業	飲食	ロシアのウクライナ侵攻に伴いエネルギーの高騰、商材・食材の品不足が原価を押し上げている。
	タクシー	新型コロナ第7波やロシアのウクライナ侵攻の影響で先行き不安だが、ただただ平常化を待つのみ
	不動産	まん延防止措置が解除されたが、状況は変わらず。夜間の人出は殆どないように見える。